

# 『津島の達人ジュニア歴史検定』感想

- 社会科でも勉強しない津島のことを知ることが出来て良かった。祭りのことを知ると面白いので、今度祭りに行った時、気にしてみようかなと思いました。津島のこと詳しく書いてあってとても分かりやすかったです。
- ぼくは尾張津島天王祭の舟に乗っています。元々興味がありましたが、益々興味をもちました。
- 津島神社に祀られている牛頭天王について初めて知った。津島に関する歴史をもつと知りたかった。邪馬台国のライバル狗奴国が濃尾平野にあったということを知りました。
- 織田信長と津島とが関係が深かったことをはじめて知りました。津島には深い歴史があることがわかりました。テキストが分かりやすかった。

- 問題数が少ないと思いました。テキストはとても読みやすく、つし丸たちが豆知識を解説してくれて面白く楽しみながら読むことができました。この検定の問題はヒントがあって、すごく分かりやすかったです。テキストでも色々なことについて詳しく書いてあったので分かりやすかったです。
- この津島検定で色々なことを知ることができました。この間、津島神社に行く途中で石道標を橋詰三叉路で見つけました。教科書に載っていたものが自分の身のまわりにあることがわかり、ワクワクしてきました。
- 私は津島の歴史のことなど全然知りませんでした。この本を読み、津島のことになって本当に良かったと思いました。家族の皆も本当に勉強になると言っていました。問題の下にヒントがのっているので、とても探しやすいです。
- 私は津島市に引っ越してきて1年しか経っていないけれど、津島の歴史の素晴らしさが分かりました。

### (3) 『津島の達人 ジュニア選手権』

- ▽ 平成27年2月14日(日) 午前中 予選会  
会場 津島児童科学館  
参加者31組93人が参加(当日3組欠席)  
個人戦 … 津島の達人ジュニア検定  
25点×3人 75点
- ※ 今年度 平成28年2月12日(日)



▽ 平成28年2月14日(日) 午後本戦

会場 津島児童科学館視聴覚室

参加者16組48人が参加 (保護者応援席 30席)

団体戦 ○×で 3人の相談可

「○×と記述問題」15問が終了した時点で最高点のチームが優勝

※ 同点の場合、サドンレスで優勝者が決定するまで団体戦を行います。 平成29年2月12日(日)

主催 西尾張CATV・津島市教育委員会



※ ふるさと  
学習の意欲  
づけを図る  
ため、イベン  
トを実施

# (3) - 2 津島の達人 ジュニア歴史選手権直前対策講座



27年度も出前講座・  
出前授業を行い、子  
どもたちの関心意欲  
を高めました。朝日  
新聞が記事に取り上  
げてくれました。

## (4) 『あま市ものしりジュニア検定・選手権』

### ○ 『あま市ものしりジュニア検定』とその出前授業

各学校で社会科もしくは総合的な学習の時間をつかって、「ものしりジュニア検定」について学習を深める

### ○ 『出前授業の実際』

- 1 本物を見よう、さわろう。 弥生土器にさわると
- 2 ものしり検定の○×問題を解き、解説を聞く。
- 3 ものしり検定の4択問題を解き、解説を聞く。
- 4 ものしりジュニア検定について知る。



# 「あま市ものしりジュニア検定」 出前授業の実際

出前授業では、

- ①歴史民俗資料館にある弥生・古墳時代の土器を持参し、実際に触れる
- ②プレゼンのスライドもとに「甚目寺観音」「戦国時代に活躍した地元出身の豊臣秀吉・蜂須賀小六・福島正則のエピソード」「七宝焼」「あま市を通る古い街道(ヤマトタケルノミコトと萱津神社)」の説明を聞く
- ③「あま市ものしりジュニア検定の問題を解くことを内容とした。

※ 「学習シート」(ワークシート)に記入しながら聞く

※ 一方的な説明ではなく、問いかけを大切にする

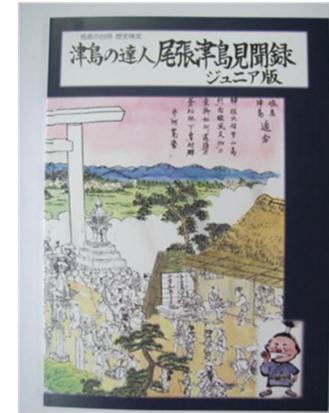




# (5) よりよいテキストをめざして

## テキストづくりのポイント

- ① 「目次」を詳しくし、わかりやすく調べやすい構成に
- ② 「インデックス」を末尾にのせ、調べ学習に活用
- ③ 出来るだけ大きな写真をのせ、分かりやすく
- ④ 大切な語句はゴシックにし、見返しをしやすく
- ⑤ 津島のゆるキャラが吹き出しで用語を解説
- ⑥ 節の末尾にクイズをのせ、復習できるように
- ⑦ 最終章に模擬試験をのせ、もう一度読み直すように



## テキストの内容のポイント

- ① 時代ごとにまとまりを考えながら「津島の歴史」の通史を テーマ性をもたせて
- ② 人物重視で 人を介して歴史を学ぶように
- ③ 歴史上のエピソード（人物・事件）を中心にし、その時代のイメージが残るように
- ④ 地域の歴史のこぼれ話、昔話が伝わるように
- ⑤ たえず中央史とのつながりをもたせて

